

第一章

第二章

1	物語（場面の読み取り）……………	4	～	7
2	物語（心情の読み取り）……………	8	～	11
3	物語（主題の読み取り）……………	12	～	15
4	説明文（指示語）……………	16	～	19
5	説明文（接続語）……………	20	～	23
6	説明文（文章の要点）……………	24	～	27
7	詩（詩の知識）……………	28	～	31
8	ことばのきまり（文の組み立て）……………	32	～	35
9	ことばの知識（熟語の組み立て）……………	36	～	39
10	漢字の知識（漢字の使い分け）……………	40	～	43

11	随筆（事実と意見）……………	44	～	47
12	随筆（細部の読み取り）……………	48	～	51
13	随筆（主張の読み取り）……………	52	～	55
14	論説文（段落の要点）……………	56	～	59
15	論説文（文章の構成）……………	60	～	63
16	論説文（主張の読み取り）……………	64	～	67
17	短歌・俳句（短歌・俳句の知識）……………	68	～	71
18	ことばのきまり（形の変わることば）……………	72	～	75
19	ことばの知識（ギ音語・ギ態語／たとえ）……………	76	～	79
20	漢字の知識（音読みと訓読み／熟字訓）……………	80	～	83

物語

場面の読み取り

学習日
.....
月 日

例題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



SAMPLE

佐藤多佳子「黄色い目の魚」より

(注) アシさんイラストを描く仕事のアシスタントのこと。
 弁慶IIここでは、通ちゃんのかつているねこのこと。
 ラフリーざつと描いたイラスト。下書き。

(1) 線①「あまりに今の気持ちにフィットする風景」とありますが、次の①〜③の風景から、「私」のどんな気持ちが想像できますか。それぞれあてはまるものをあとから選び、記号で答えなさい。

① ねんど色の低い空

② 花火の残骸

③ スカートの風でめくれあがる

- | | | | |
|---|-----------|---|-------------|
| ア | 重くしずんだ気持ち | イ | 希望にすがりつく気持ち |
| ウ | イライラした気持ち | エ | ものさびしい気持ち |
| オ | なつかしい気持ち | カ | もえあがるような気持ち |

考え方

「物語」も、「小説」と言われるようなものになってくると、「だれが、どうした」というストーリーよりも、登場人物の心の動きが細かくえがかれたものが多くなります。表現されている場面の様子に、人物の気持ちが映し出されていることが多いので、風景などの表現も読み飛ばしてはいけません。そこから感じとれることを大切に、読み進めていくようにしましょう。

(2) 線②「死体のように目は物を見ていない」とありますが、このとき、「通ちゃん」は何をしていたのですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア つかれきって、休んでいた。
 イ 「私」のことを心配していた。
 ウ イラストの構想を練っていた。
 エ 悲しみにしずんでいた。

考え方

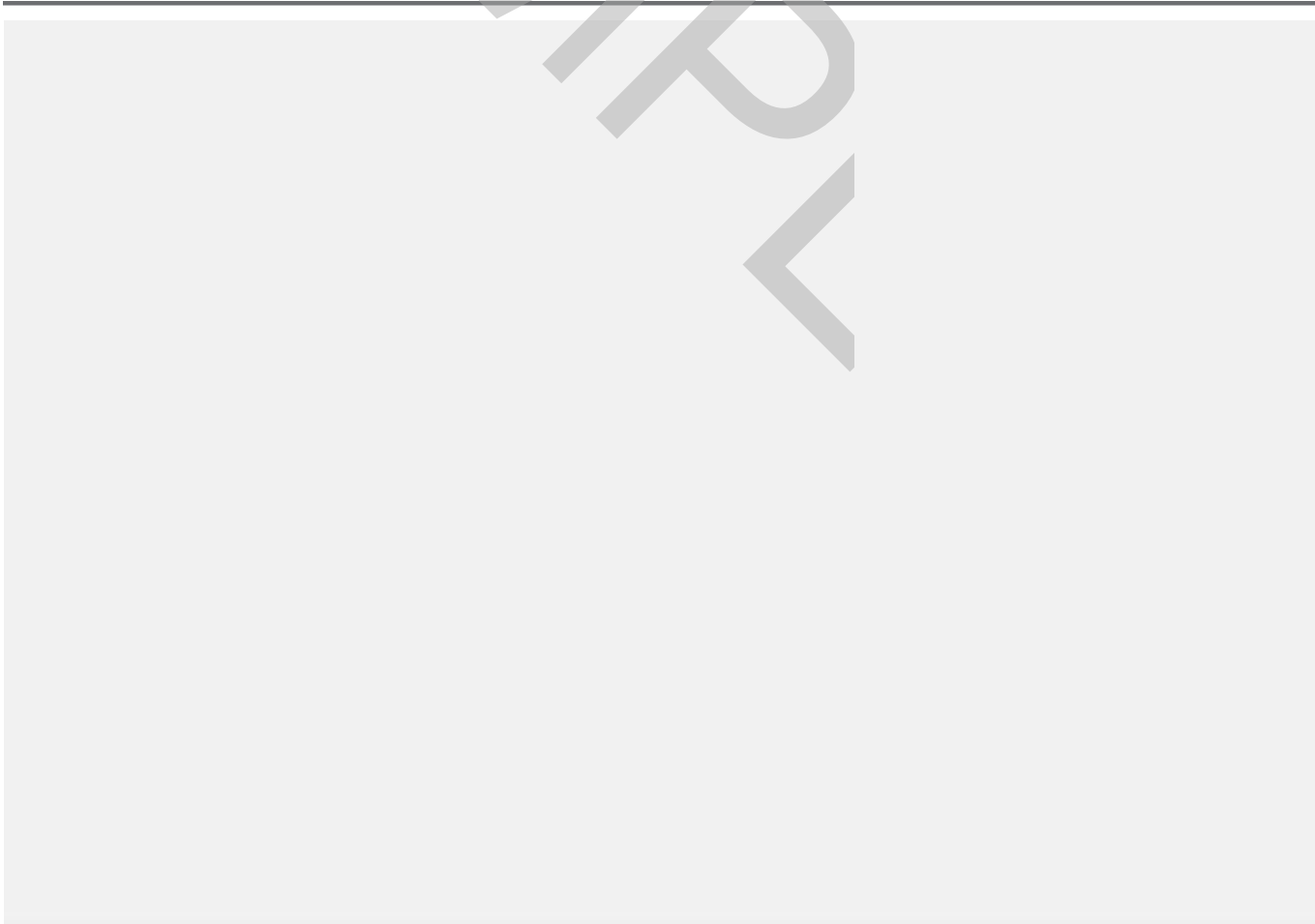
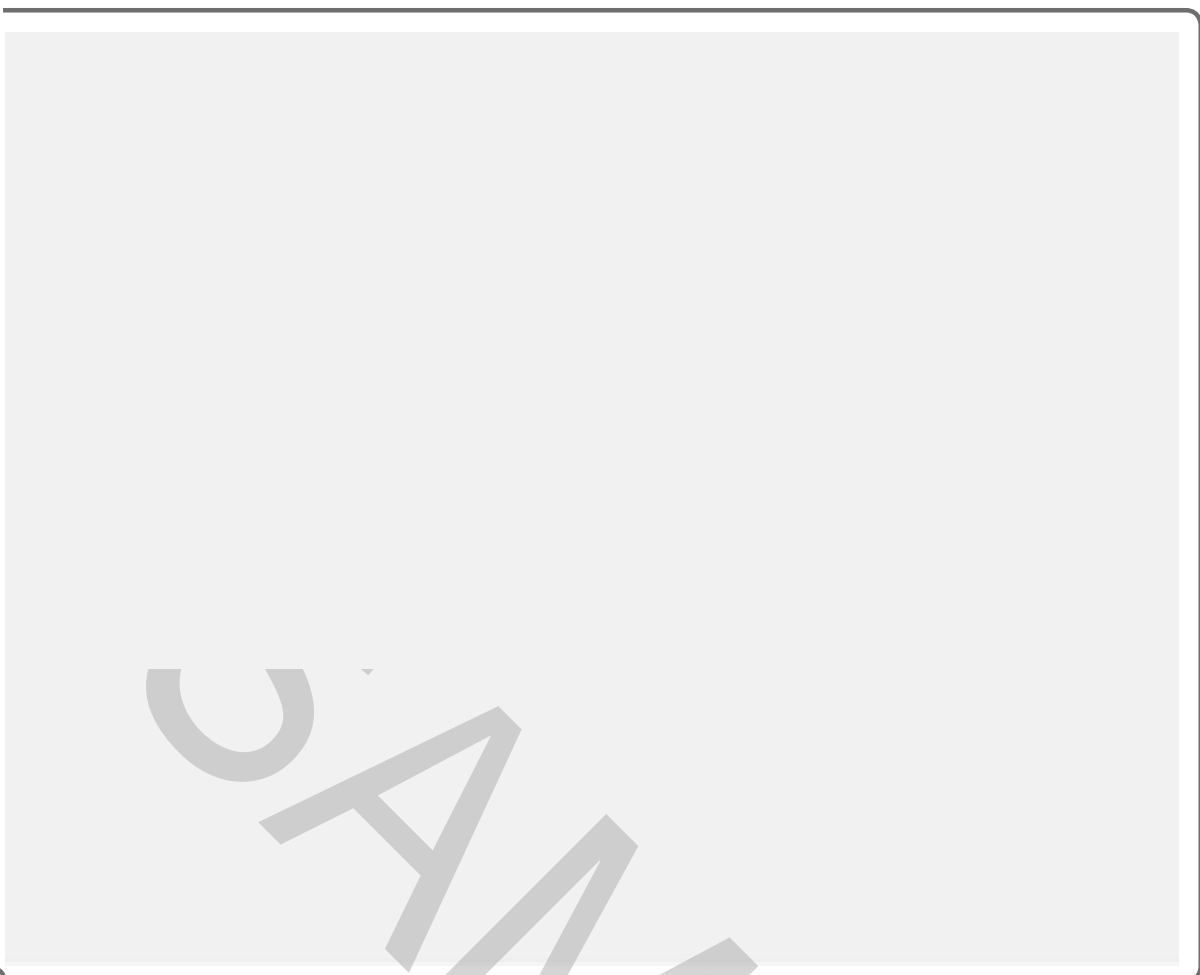
「じつと考えこんでいた」と書いてあれば、わかりやすくはありませんが、「通ちゃん」のふんいきまで味わうことはできません。「死体のよう」とまで表現されるほど集中していたのだと読んだあとなので、このあと「通ちゃん」が、急に「私」が泣いていることに気づいたときのおどろきが、本物だと理解できます。

(3) 線③「壊れた水道」とは、だれの、どんな様子をたとえた表現ですか。書いて答えなさい。

考え方

自分のことなのに、人のことを言っているようなつき放した表現をしています。自分でも自分のことを、手におえないような気持ちになっている様子が、このようなところから感じられます。

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



例題

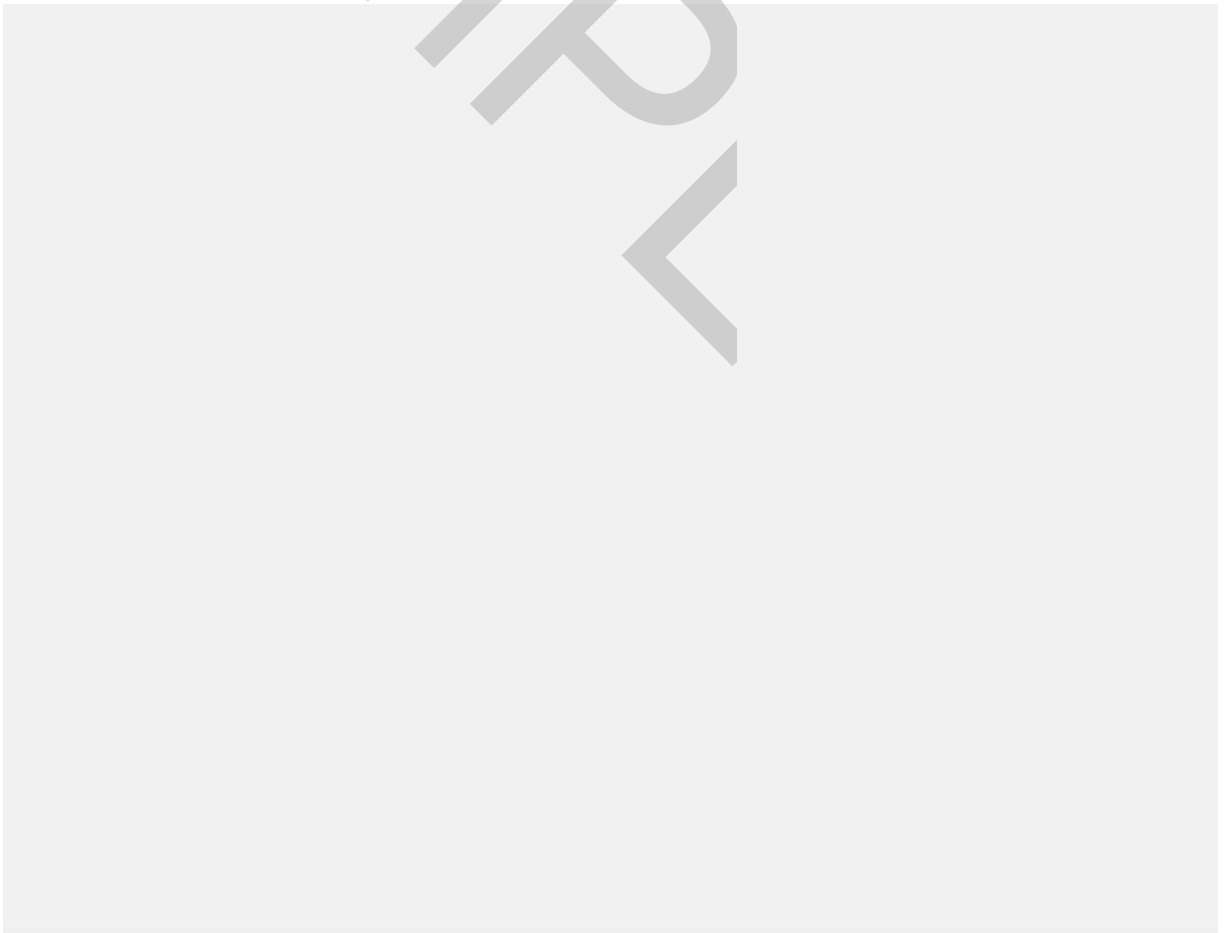
● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



(注)

しり馬にの(る) || 考えもなしに、人と同じことをする。

〈山中恒〉「ぼくがぼくである」と「よりくやまなかひさし



□ (1) —線①「ちょっとうらやましいと思った」とありますが、秀一は、なぜ、勉強をはじめた夏代をうらやましく思ったのですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 家出してきて、勉強道具を家に置いてきてしまったから。
- イ やれといわれないで勉強する夏代は、かつこよかったから。
- ウ テレビもなく、勉強しやすい静かなかんきようだったから。
- エ 夏代が、役立つことばかり勉強していたから。

考え方

この物語のように、登場人物の独白（ひとりですつと話していくこと）が何ページにもわたるものは、気持ちを理解するための手がかりがたくさんあって、わかりやすいようですが、多過ぎてわかりにくいとも言えます。ポイントは、まとまりごとのキーワードを見つけないこと、そして、人物のおかれた状況ようと関連させて考えることです。「ちょっとうらやましいと思った」のあとの独白の部分のキーワードは、「かつこいいことをたまにはやってみよう」です。秀一は、今までの自分と、夏代を比べて考えています。

(2) —線②「どうしても、いろいろ考えてしまう」について、次の問いに答えなさい。

□ ① 家出をする前、秀一が考えていたこと具体例を、本文中から二十一字で書きぬいて答えなさい。

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

